

事業名

感動を分かち合う地域ふれあいコンサート

目 標

豊かな心のふれあいの場をもつことで情操豊かな地域の子どもを育てる**1. 取組の視点**

新しい町でありながら、地域の祭りを開催するなど自治会活動や公民館活動、スポーツ協会の活動など、活発な地域活動が行われている。これまでも、夏祭り等に平城東中学校の吹奏楽部が招かれて演奏をしたことがあり、「地域で決める学校予算事業」を進めるにあたって、吹奏楽のコンサートを校区内3地域でできればということで取組内容が決まった。

地域のお年寄りから子どもまで多くの人が集い、ともに豊かな心のふれあいができるような機会としたい。

**2. 取組の概要**

この取組は、平成22年11月佐保台小学校（佐保台）、平成23年1月大和ハウスホール（左京）、2月北部会館市民文化ホール（朱雀）と、校区内3箇所で実施した。いずれも定員を超える参加者があり盛況であった。特に広くて音響効果のよい大和ハウスのホールでは、300人を超える参加があった。各会場では、本協議会会長から「地域の人々がもっと学校や幼稚園に入って、子どもたちとともに活動し、地域で子どもたちを育て、見守る活発な地域社会をつくっていきましょう。」と、この事業の趣旨や地域学校連携を通じた地域コミュニティづくりの大切さについての話があった。

**3. 成果と課題**

各回のコンサートでは、自治会や地域の各種団体の協力を得ることができ、本協議会の活動を多くの人々に知っていただくとともに連携の幅が広がった。

町の高齢化率が上昇する中、家の中で過ごしているお年寄りの方が外に出る機会をつくったり、住人どうしが顔を合わせる機会を増やしたりするなど地域の活性化のためにも地域の学校活用が有効である。

平城東中学校の吹奏楽部にとっても、観客を前にして演奏できる機会が増え、また、楽器の補助等により活発な活動を行うことができた。本事業以外でもこの取組の成果を生かして地域とつながる取組を考えたい。



事業名

Never Stop Shining 平城東中学校

目標

**生徒の自主的な活動を通して夢を目指し輝くことを諦めない
生徒の育成****1. 取組の視点**

地縁関係の薄いニュータウンの子どもたちに、一緒に学ぶ仲間としての絆を深めさせるため、みんなで力を合わせて行う体験、心に残る価値ある体験をさせたい。そのため、普段の教科等の学習や特別活動、学校行事等の活動で得た知識や技能を基にして、学年全員が力を合わせて総合劇の創作や学年合唱等を行い、保護者や地域の方々が見守る中で演じることを通して自信や充実感をもちたい。

この取組を進めるため、体験的な学習を進めたり、ゲストティーチャーを呼んで学習の幅を広げたりするほか、物的な環境整備のひとつとして、体育館での発表用のポータブルステージを購入し、豊かな表現ができるようにする。

また、これらの取組を広報することにより、地域と学校との連携、協力関係を一層強いものにした。

**2. 取組の概要**

本校の文化発表会で行う「学年劇」は、3年生の普段の学習や活動で得た知識・技能を総合し、全員の力を結集させてひとつの「形あるもの」を創り上げるものである。

本年度は、雅楽、尺八など日本の伝統的な文化

に触れたり、沖縄への修学旅行で平和の大切さや沖縄の文化を学んだりした。これらの経験や自分たちで学習した内容に基づいて、壮大な総合劇が創り出された。



台本を検討するチーム、音響効果、舞台美術、大・小道具、そして劇を演じる出演者の他、ダンシングチーム、合唱、演奏チームが組織され1時間あまりに渡る劇が上演された。

会場の体育館には、保護者や地域の方々为例年以上にたくさんお集まりになり、お褒めの言葉をいただき、生徒にとっての励みとなり、充実感をもって行事を終えることができた。

3. 成果と課題

授業や学級での取組の毎日の積み重ねを「総合劇」という形にまとめ上げ、ともに感動を分かち合える場面をつくることができた。中学卒業後も同じ地域で暮らす生徒どうしが仲間の絆を深めるとともに、断片的な知識、技能を総合的にまとめることで大きな成果を上げることを学び、また、仲間と協力することで大きな力を発揮できることを学ぶことができた。



事業名

豊かな心を育む図書室環境

目標

読書環境の整備や多様なメディアに対応した情報センターとして活用し、心豊かな子どもの育成をめざす**1. 取組の視点****①読書への関心意欲を育てる環境作り**

本校では、図書室で本を読む時間を設け読書量を増やす取り組みを進めている。また、ロングの昼休みに図書室で月1回地域の方の協力を得て読み聞かせも行っているが、自ら意欲を持って図書室を利用する児童は少ないように思う。そこで、児童が読書への関心を持って図書室をより多く活用するように整備・充実を目指した。

②情報センターとして活性化

児童はいろんなことに興味を持ち、「知りたい」「調べてみたい」という思いがある。そこで情報が集約されている図書室を目指した。

2. 取組の概要

毎年図書の本を少しずつ購入して増やしているが、子どもたちには「本が増えた」という印象につながっていないと考えられる。また、書籍が古くなり魅力ある図書室になっていないようにも感じた。そこで、児童が手にとって読みたくなる本や次年度の教科書にでてくる作品や作者の書籍を購入した。



児童が読みたい本を見つけやすいようにするために本箱を購入するとともに、カウンター位の位

置も変える等整備を行った。

図書室が情報センターとして活性化するように新しくDVDコーナーを設置した。コーナーには、文化遺産を取り巻く自然環境の維持に取り組んでこられた人々の思いや努力を少しでも知るために、世界遺産のDVDを購入した。DVDは、児童が自由に映像資料を見やすいように展示した。また、PTAの方にボランティアとしてきていただき、ブッカー貼りと本の整理をしていただきました。

**3. 成果と課題**

カウンターや本箱の位置を変え、DVDコーナーを設けることで児童は、「図書室が変わった。」「使いやすくなった。』と感じているようである。また、本の冊数も増え少しずつ魅力ある図書室になってきているように思う。しかし、まだまだ古い書籍が多く整備充実させていくことが大切であると考える。そこで、地域やPTAのボランティア協力を得て、本を読みたくなるような雰囲気作りとして掲示物や飾り、分類整理など環境面を整えていきたいと考えている。まだまだ情報センターとして活性化しておらず、児童が調べてみたくなるように資料の充実を図っていきたい。

事業名

育てよう子どもの心と自然環境

目標

子どもたちが自然や生き物と親しめる環境の整備を行い、体験活動を通して情操を育てる

1. 取組の視点

住宅街にある本校では、校区内に川や池は無く、農地もないために、自然の生き物に親しんだり、作物や草花を育てるといった経験をした子どもたちが少ない状況にある。今までに、観察池や飼育小屋、ビオトープなど整備を繰り返し行っている

①体験活動の重視

子どもたちが、日常的に自然や生き物と触れ合うことや草花を育てる機会を多く持つことで、育てる喜びや充実感を味わうことができ、命の大切さや温かな心を育ませていくことができると考える。

②自然環境について興味関心を持つ

環境問題について学ぶことで、自分の日常生活を振り返り、何ができるか気付き・考えさせていくことが大事であると考えた。

2. 取組の概要

子どもたちの情操を育てるために、「教育の森」にあるビオトープを近畿大学農学部の北川忠生先生に指導して頂き、近畿大学の学生にも協力を得ながらビオトープを拡張し、子どもたちが観察しやすいように橋をつけたりして工夫を行い整備した。



「絶滅から救え、奈良県のニッポンバラタナゴ」というテーマで北川先生から4・5年生に出前授業をしていただいた。授業の中で実際にニッ

ポンバラタナゴをビオトープへ放流した。

感性豊かな心を育てるとともに環境美化の充実を図るために、地域の人をボランティアとして招き花壇の整備や木の剪定を行った。また、委員会活動として栽培委員会の児童を中心に草や葉等を集めて堆肥作りに取り組み、その土を使って全校児童一人一人が一鉢に花を植える運動をした。1・2年生は、チューリップの球根、3年生以上は、パンジーの苗を植えました。子どもたちは水やりの当番を決める等美しく大切に育てている。



3. 成果と課題

ビオトープを拡張し橋をつけて見やすくすることで、多くの児童がビオトープで遊ぶようになった。また、講師の先生から話を聞くことで自然環境問題について考えるようになり、絶滅から生物を守らなくてはならない等関心を持つようになった。生き物に触れ、植物を育てるといった体験活動を通して命の尊さや優しい心が育ちつつある。

自然や生き物と親しむ機会が少ないために多くの場の設定をしていきたい。また、水・空気などさまざまな環境問題について考えさせていく必要があると思う。

事業名

地域と共に、笑顔いっぱい元気いっぱい佐保台っ子

目標

児童一人ひとりが様々な感動体験を通して、豊かな心を育む**1. 取組の視点**

本校は「心豊かな子どもを育てる」ことを目標に、自ら学ぶ子・思いやる心をもつ子・最後まで励む子をめざし、「生きる力」を身につけさせることを教育活動の基盤に据えて、日々活動している。しかし、子どもたちをみる時、物質的には恵まれているものの、人に対する思いやりの気持ちを持ちにくかったり、自分の考えで判断し、行動したりすることが苦手であったりするため、多くの体験や活動をし、人との関わりを持つ中で、一人ひとりを生かすことが課題であると考えた。

そこで、本校では、地域の方々の協力を得て、様々な体験活動を行うとともに、いろいろな人との出会いや交流、感動体験を通して、豊かな心を育てていきたいと考えた。

2. 取組の概要

5・6年の障害者理解学習では、企業の管理部長を招いて、話を伺った。施設等のバリアフリーも大切であるが、スロープがなければ、そばにいるみんなで車いすを運ばばいいので、最も大切なことは、「一人ひとりの心のバリアフリー」であることを教えていただいた。



本の読み聞かせ集会では、講師の絵本作家の方に、紙芝居をしていただいた。物語の楽しさ、素晴らしさに子どもたちは感動し、さらには、これからはたくさんの本を読みたいという声が子どもたちからあがった。



また、日々の栽培活動では、校内の美化と共に、生命の大切さを、植物を育てることによって体験できた。

その他、福祉体験における「手話」・お楽しみ集会における「腹話術」・パソコン学習等、様々な体験をすることができた。

3. 成果と課題

福祉体験・本の読み聞かせ体験・栽培活動・パソコン学習など様々な体験活動を通して、一人ひとりが自分の目で見、耳で聞き、心ふるわせる体験を重ねることができた。これらの体験は、子どもたちの心を豊かに育んでいくものと思われる。

このような取組は、継続的に取り組んでいくことで、さらに大きな効果が期待できる。来年度も、本年度のような取り組みをさらに続けていきたいと考えている。

また、校区内での人材の発掘等にも取り組んでいきたい。

事業名

地域に広がれ！左京の音色♪

目標

教育環境、特に視聴覚機器の整備・充実を図ることにより、学校中に子どもたちの音楽の音色を広げる。また、その音色を地域に届け、地域とともに子どもたちの豊かな感性を培う

1. 取組の視点

左京の児童は学習面においては平均より高く、校区は住宅街で全般的に生活も安定している児童が多い。

しかし、ともすれば指示待ち的な側面を感じる場面も多く、なかま同士で温かで深くつながれた喜びや感動を味わい、「左京小で学んでよかった。」という思いを持てる学校づくりを目指してきた。また、地域の方々も、新興住宅地であるがゆえに、子どもたちがよりこの左京地区で学び育った「ふるさととしての左京」を感じられる取組が求めている。

そこで、「地域とともに子どもたちの豊かな感性を培う」ことをコンセプトに「地域に広がれ！左京の音色♪」と銘打ち、音楽や劇など感性に響く取組を広げようとした。

2. 取組の概要



取組のメインは11月におこなわれた校内音楽会で、保護者をはじめ、学校評議員会・地域の全体への呼びかけもおこなった。当日は地域の方々の参加は少なかったが、多くの保護者に来ていただき、学校評議員会の方々には、その場で講評もいただき、子どもたちの大きな励みとなった。

また、各教室でのキーボードをはじめとする視聴覚機器の充実により子どもたちの練習に対する前向きな気持ちが高まりを見せたことも成功

の大きな要因である。さらには今年度、奈良県生徒指導研究大会が当校で開催され、子どもたちの主体的な集会活動が行われた。その時も、全校で



の歌や手作りの学級歌が披露され、大きな感動を呼んだ。その後も帰りの会などに歌を歌う学級も増え、オリジナル曲（学級歌）もでき保護者にも大きな感動を与えている。また参観で劇をするなど様々な表現活動を用い自分たちの思いを発信している。

3. 成果と課題

子どもたちは、言葉で自分たちの考えを伝えあうことだけでなく、音楽や音色など言葉以外のもので思いを伝え合うことができることも知りつつある。そして、それら様々な方法で主体的に自らの思いを伝えあうことにより、人と人とのつながりがさらに深まり、広がっていくことを感じ取れたと思う。また歌など感性に訴えるものは世代間の壁も超え、文化の壁も超え、思いを共有し分かち合えることも十分感じることもできたとも思う。さらには、地域の方々には、音楽や劇を通して学校の子どもの取組に深く感動していただき、このような機会をさらに広めてほしいという声も多くいただいている。

また、教員はこのよううれしい反響をはげみにつながることの大切さを感じ、目標にもっと迫れるよう努めたい。

事業名

集まれ！70の輝く瞳

目標

平城遷都1300年祭に参加し、自分の町を自慢できる子どもを育成すると共に、花の世話や読書を通して、自分の心を耕し、豊かな心を持つ子どもを育てる

1. 取組の視点

① 見学をと通して意識変革を図る。

園児たちは、平城京や大仏といってもなかなかイメージは沸かないと思われる。奈良に住んでいても見る機会が少ない。そこで、その場に行き、大きさや広さに驚き「すごいものがある」と感動することを通して、奈良の自慢・誇りにつなげていくことが大切である。また、学びを絵や工作で表すことも感動を続かせることに繋がると考える。

② 感動・相手意識を持った行動力を培う

園児を取り巻く花や小動物たちは、心をかけてその世話をすれば応えてくれるという経験を積むことにより、自然の素晴らしさに感動させられると思われる。また、絵本を読んだり、DVDを視聴したりすることで、自分の行動を振り返ることができるものとする。

2. 取組の概要

①「園児たちは朱雀の地域に住んでいるが、歌姫街道で平城宮跡に行くことはあまり無いのではないだろうか。」「近鉄に乗って途中車窓から見える大極殿や朱雀門に感動を覚えているのだろうか。」ということから、平城遷都1300年祭に合わせて、春に東大寺へ行った。園児たちは、目の前に建つ大仏殿の大きさに驚き、中に入り大



仏の大きさに驚き、感嘆の声を上げていた。また、秋には平城宮跡に行った。朱雀門や大極殿の大き

さ、広さに目を大きくし、歩くだけで疲れた平城宮の広さが帰りのバスの中で話題になった。



②正門横に作った花壇に皆で力を合わせて花を植え、水をかけ世話を続けることにより、花も元気に咲き続けていることの素晴らしさを体験した。また、絵本を手に取り真剣に読み、内容を一生懸命話してくれる姿から、これから、自から進んで本を手にとって読むようになってくれるものと思われる。

DVDの視聴も、楽しさと共に登場人物の行動から、人とのかかわりや道徳心の芽生えを培うのに大変役に立った。

3. 成果と課題

本事業を通して、園児たちは平城宮跡という広いところがあり、大きな建物が建っていること、東大寺というお寺に大きな大仏があることを自分の目で見て、足で歩いて体験したことと思われる。将来、園児たちが成長する過程で自分の住んでいる町に世界遺産があり、自分たちが体験した感動をつなげて行きたいと思うような感性を培っていきたいと思います。また、花の世話を通して、「目をかけ・気をかけ・心をかけ」に相手も応えてくれることを学んだと思います。これは、花だけではなく、友だち同士でも同じであるという、相手を思いやる気持ちにも繋がっていったことと考える。

事業名

笑顔がいっぱい 佐保台っ子

目標

感動体験を積み重ね、豊かな心を育てる**1. 取組の視点**

「進んで活動し、みんなで楽しさを味わう幼児の育成」を目標に、心も身体も健康な子・自分の思いを伸び伸びと表現する子・最後までやりとげる子・友だちと仲良く遊ぶ子をめざし、保育に努めている。しかし、本園は、小規模園で、少人数クラスであり、また、幼児の大半が核家族である。地域の公園など安全な遊び場に恵まれているが、人とのかかわりや友だちと一緒に遊ぶ経験が乏しいように思われる。そこで、地域の方々の協力を得て、多様な体験を積み重ねるとともに様々な人とのふれあい（親子・未就園児・地域の方々・他園・小中学生など）や感動体験を通して、豊かな心を育てていきたいと考えた。

2. 取組の概要

親子の触れ合い活動では、今年は平城遷都1300年ということもあり、遷都祭にでかけた。こども達だけでなく、保護者の方もパンフレットを片手に楽しそうに朱雀門や南門、大極殿等の建物や衛士隊の再現を間近で見ている。子どもたちは、厳粛な雰囲気「ちょっとこわかった」「天井きれいかった」「こんな広いところに人が住んでたんや」等、感じたり気付いたりしたことを自分なりの言葉でみんなと話していた。友だちやお家の方と楽しい時間を共有し、奈良の文化に触れる機会となった。



お話の会では、身近な奈良の昔話や大仏様の紙芝居をしていただいた。話の内容のおもしろさや講師の方の話術や温かな人柄に触れ、子どもたちは、「上手やった」「かわいい声やった」と感心、感動していた。



人形劇団を招いての観劇は、子どもにもわかりやすく効果音もあり、物語の世界に引き込まれ、目を輝かせて観ていた。特に年長児は、舞台装置や人形の操作にも興味を示していた。観劇後、「面白かった」「もっとみたい」という声がきかれた。

園内作品展では、保護者、地域の人や未就園児や小学生など、多くの方に作品を見ていただき、それぞれの力を発揮する場となった。

また、栽培活動では、世話をすることで、生長を楽しみにする会話が生まれ、大事に育てようとする姿がみられた。収穫した野菜は、園や家庭で食べ、命を育てる大切さを感じることができた。その他、佐保台ふれあいまつり・親子体操など、様々な体験をすることができた。

3. 成果と課題

自然とのふれあいや親子での様々な活動・お話の会・観劇・栽培活動、地域や他園との交流などを通して子どもたちは心に残る感動体験を積み重ねてきた。そのことにより、感性が豊かに育ってきている。来年度も継続して本年度のような取組を更に続けていきたいと考えている。また、来年度は佐保台幼稚園としての最後の年になるので、地域、保護者の協力を得て、心に残る1年にしていきたいと思う。

事業名

わくわく、どきどき、心豊かに育ちあう楽しい幼稚園

目標

心を動かす体験活動を通して、生き生きと活動する心豊かな幼児を育てる

1. 取組の視点

本園は、平城ニュータウンの東部に位置しています。地域全体として、子どもたちをみんなで守り育てていこうという熱意が感じられる。核家族化や少子化が進む中、家庭では、習い事や家の中で遊ぶことが多く、自然体験や生活体験、友達との戸外遊びなどの直接体験による心揺さぶられる経験が減少しているように感じられる。人間形成の基礎となる幼児期に心を動かす感動体験を計画し、心豊かに生き生きと活動する幼児を育てていきたいと考え取り組んだ。

2. 取組の概要

〈 奈良の良さと出会い、もっと知ろう 〉

子どもたちは、世界遺産のある町奈良に住んでいる。園外保育で平城遷都1300祭の「平城宮跡」に出かけ、大極殿や朱雀門・広々とした平城京を五感で感じることができた。



親子でチャレンジ「やってみよう筆づくり」では、伝統工芸の筆づくりに親子で挑戦し、布海苔を100回位突きながら付け、糸を巻いて布海苔を絞り出すという工程をお家の方と一緒に体験した。世界に一つの「奈良筆」を使って、心を動かし感動したことを絵や制作にすることができ、一人一人が生き生きと取り組む姿が見られた。お家の方々も、「は



がき絵」に挑戦され、描くことの楽しさを感じていただけただよ。本物に触れる体験を重ねた子ども達の作品は、生き生きとしたものとなり「園内子ども作品展」にて、たくさんの感動作品を展示し、多くの方々に見ていただくことができた。



〈 みんなで音楽会をしよう 〉

中学校との交流から吹奏楽部の演奏を聴く機会に恵まれている。園においてもやってみようという



憧れから、楽器の充実を図り、楽器遊びを通して、豊かな感性を育む感動体験となるよう、新たにピアノを購入した。興味をもった子どもたちは、早速触れ、鳴らして遊ぶ姿が見られた。地域の「敬老祭」に参加し楽器演奏を披露し、とても喜んでいただいたことは、子どもたちの生活を豊かにし、自信となった。

生活発表会でも何回も練習して、みんなの力を合わせ、楽器演奏を見ていただいた。

**3. 成果と課題**

いろいろなことに興味関心をもって取り組み、生き生きと生活する子どもたちの姿が見られ、育ちを感じる。子どもたちを取り巻く環境の中で、より豊かな感動体験ができるよう保育の創造と地域との協力体制の強化に努めていきたいと考える。